

チーム三菱ラリーアート、アジアクロスカントリーラリー連覇に向けて始動、『トライトン』の耐久試験で確かな手応え

三菱自動車工業株式会社（以下、三菱自動車）が技術支援するチーム三菱ラリーアートは、本年8月にタイで開催されるアジアクロスカントリーラリー（以下、AXCR）にピックアップトラック『トライトン』の3台体制で参戦します。これに先立ち、チームは5月中旬、タイ北東部のカオヤイ国立公園周辺のオフロードコースでAXCR本番を想定した7日間にわたる競技区間と同等距離の耐久試験を実施し、AXCR連覇に向けて改良を施した『トライトン』が狙い通りに仕上がっていることを確認しました。



AXCR2026 参戦車両

AXCRはアップダウンの激しい山岳地帯、狭く陰しい密林地帯、スコールによる泥濘路や川渡りといった低～中速の悪路、草原や農道といった比較的フラットで高速の未舗装路など、高温・多湿な気候とあわせ東南アジア特有の過酷なコース、2026年は6日間、約2000kmで競われます。

昨年に続き連覇を狙うチーム三菱ラリーアートは、『トライトン』のポテンシャルをいっそう引き出し、変化に富む過酷なAXCRでドライバーが意のままに走破できるよう、運動性能を高めました。前後重量バランスを改善するとともに、サスペンションをファインチューニングし、四輪の接地性を高めて操縦安定性と旋回性を向上。エンジンは低中速域の応答性を高め、ドライバビリティと走破性を向上させています。

チーム三菱ラリーアート総監督 増岡浩のコメント

「変化に富む過酷なコースをハイスピードで駆け抜けるAXCRでは、状況によってはお客様の一般走行で路面から受ける車体への衝撃の30倍以上の負荷がかかると言われています。これまでの4年間の参戦で得られた技術的な情報は、ラリーカーの戦闘力向上はもちろん、市販車の商品力強化の参考としており、その知見は『トライトン』に限らず、今秋、世界初披露する新型『パジェロ』にもいかしています。ラリー活動を通じたクルマづくりによって、三菱自動車らしい魅力ある尖った商品を提供してまいります」

1. チーム体制

- 総監督：増岡 浩（三菱自動車）
- チーム代表：シャユット・ヤンピシット（タントスポーツ）
- テクニカルディレクター：コーポン・アマータヤクン（タントスポーツ）

[出場ドライバー/コドライバー]

ドライバー：チャヤポン・ヨーター

出身：タイ・ウドーン タニ

生年月日：1987年8月16日（38歳）

略歴：タイ国内の数多くのラリーやレースで活躍中。AXCRでは、2022年、2025年の二度、総合優勝を飾っている。丁寧で正確、さらに車両を労わる“壊さない速さ”を持つドライバーとして定評がある。

コドライバー：ピーラポン・ソムバットウォン



ドライバー：田口 勝彦

出身：日本・岡山県

生年月日：1972年2月7日（54歳）

略歴：FIA アジアパシフィックラリー選手権のチャンピオンを2度獲得するなど、海外でも活躍する国際的なラリードライバー。AXCR2025でも日本人ペア最上位の総合5位の成績を収めた。

コドライバー：保井 隆宏



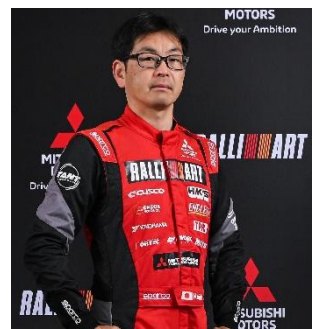
ドライバー：小出 一登（三菱自動車）

出身：日本・愛知県

生年月日：1979年6月19日（46歳）

略歴：三菱自動車のテストドライバーとして、これまでに『パジェロ』や『ランサーエボリューション』等、数々の新型車の試験を担当。現在ではテストドライバーの運転教育インストラクターや国内外イベント等でデモンストラードライバーを務める。

コドライバー：千葉 栄二



2. 『トライトン』ラリーカー概要

	ヨーター/ソムバットウォン車 田口/保井車	小出/千葉車
全長×全幅	4,920mm×1,995mm	5,070mm×1,865mm
ホイールベース	3,130mm	
トレッド	1,730mm	1,570mm
エンジン形式	4N16 型 4 気筒 ターボディーゼル	
燃料噴射装置	高圧コモンレール	
排気量	2,439 cc	
ターボチャージャー	「三菱重工エンジン&ターボチャージャ」製 VG ターボチャージャー	
最高出力	160kW 以上	
最大トルク	500N・m 以上	
エキゾーストシステム	「HKS」製 AXCR コンペティションモデル	
変速機	6 速シーケンシャル トランスミッション 「Moty's」製 ギヤオイル、「小 倉クラッチ」製強化クラッチ	6 速オートマチック トランスミッション
4WD システム	フルタイム 4WD	スーパーセレクト 4WD-II
フロント/リヤデフ	「CUSCO」製 差動制限装置付	
フロントサスペンション	独立懸架/ダブルウィッシュボーン式コイルスプリング	
リヤサスペンション	4 リンクリジッド式コイルスプリング	
ショックアブソーバー	「CUSCO」製 減衰力調整式ツインダンパー	
バンプストッパー	油圧式	
ステアリング形式	ラック&ピニオン (パワーステアリング)	
ブレーキ	「ENDLESS」製 モノブロックブレーキキャリパー、 ベンチレーテッドディスク、パッド、 「FORTEC」製 競技用ブレーキフルード	
ホイール	「WORK」製 CRAG T-GRABIC II MC+ アルミニウムホイール (17 インチ×7J)	
タイヤ	「横浜ゴム」製 GEOLANDAR M/T G003 (245/75R17)	
その他特長	カーボン製：エンジンフード、 フロントフェンダー、前後ドア パネル、カーゴアウターパネル	カーボン製：エンジン フード、後ドアパネル、 カーゴアウターパネル

3. パートナー企業 (50 音順、2026 年 6 月 11 日時点)

「チーム三菱ラリーアート」は、以下のパートナー企業からの支援を受け、AXCR2026 に参戦します。

企業名	サポート内容
ENEOS 株式会社	エンジンオイルの提供
小倉クラッチ株式会社	強化クラッチの提供
株式会社エッチ・ケー・エス	ラリーエンジンテクニカルスポンサー
株式会社エンドレスアドバンス	ブレーキキャリパー、ローター、パッドの提供
株式会社キャロッセ	前後サスペンション、前後 LSD の開発協力、提供
株式会社トライボジャパン	ギヤオイルの提供
株式会社阪急阪神エクスプレス	活動支援
株式会社ワーク	アルミホイール (CRAG T-GRABIC II MC+) の提供
TPR 株式会社	ピストンリングの提供、活動支援
フォルテック株式会社	レーシングクーラント、ブレーキフルードの提供
見田工作株式会社	活動支援
三菱自動車販売協会	活動支援
三菱重工エンジン&ターボチャージャ株式会社	ターボチャージャーのテクニカルスポンサー
横浜ゴム株式会社	マッドテレーンタイヤ 「GEOLANDAR M/T G003」の提供
有限会社 CARRY ART	活動支援

大会概要

2026 年大会は 8 月 9 日 (日) から 15 日 (土)、タイ国内で競われます。タイ東部のビーチリゾートであるパタヤでセレモニアルスタートを切り、カオヤイ国立公園など自然豊かなプラーチンブリー、チャオプラヤー川の起点となるナコーンサワン、スコータイ王朝の要塞都市として発展したカンペンペットと北上し、雄大な自然と重要な史跡の残るタイ北部のピッサヌロークにゴール。総走行距離は約 2,000km を予定しています。

<AXCR2026 公式サイト>

https://asiacrosscountryrally.com/index_ja.html

<ラリーアート公式 SNS>

X : https://x.com/ralliart_jp

Instagram : <https://www.instagram.com/ralliart.official/>

AXCR スペシャルサイト：<https://www.mitsubishi-motors.com/jp/brand/ralliart/axcr/axcr2026/>

三菱自動車について

三菱自動車は、ラリー活動で培った四輪制御技術と、長年にわたり蓄積してきた電動車開発の知見を有する自動車メーカーです。ルノー・日産アライアンスの一員として、日本およびアセアン諸国に生産拠点をもち、グローバルで約 28,000 名の従業員が働いています。プラグインハイブリッド EV の『アウトランダーPHEV』、ピックアップトラック『トライトン』、軽自動車『デリカミニ』など、あらゆる路面状況や使用環境に対応可能な商品ラインアップを通じて、お客様の冒険心を喚起し、心豊かなモビリティライフを提供することを目指しています。三菱自動車は、鍛え上げた四輪制御技術や電動化技術を活かした「三菱自動車らしい」個性的な商品を創出すべく、技術をさらに磨き上げ、真摯にクルマづくりに向き合い、引き続きお客様にワクワクするようなモビリティライフをお届けしてまいります。詳細については、当社ホームページをご覧ください。

<https://www.mitsubishi-motors.com/jp/company/information/index.html>

以上